

逗子の景観まちづくり

瓦版 第三十五号

平成二十七年一月十六日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「初富士」

初富士や相模の海はむらさきに
と詠んだのは、葉山で暮した堀口大聖。今年
の逗子からの初富士は、頂きの雪が桜色に
神々しいばかりに輝いて見えた。良い一年で
あって欲しいと願わずにはいられない。



「新春恒例 小坪漁港のみかん投げ」 絵 日高 仁

逗子からの富士が、優しくしつくりとくるのは、海だけ或いは岩のごつごつした感じとの組み合わせではなくて、緑の山や江の島とのハーモニーがあるからではないか。眼福とは正にこのような景色の為の言葉に思われる。

ふいに遠い日の小学校の通学路が思い起こされる。世田谷の小学校の登校時には、いつも富士の勇姿がのぞめた。そう、突然、終の住処として逗子を選び、周りの皆を驚かせながら、あつという間に移り住んで来たものには、心の深いところで繋がるものがあつたのだと合点がいく。何しろ、伊勢湾台風時に雨戸を押さえていた両親の後ろ姿しか記憶は無いものの、出生地は富士の麓の静岡県でもあることだし。

富士山の姿は、逗子湾の海の表情同様、刻一刻と多彩な姿を見せてくれ、見飽きることはない。冬の時期は、午前中と夕暮れ時に見られることが多い。山裾の丹沢や箱根の連山までもくつきりと見えることも、頂きの雪の部分だけのことも、横一列に天女の羽衣のように雲をまとっていることもある。黒富士と呼ばれる夕暮れ時にシルエットのように浮かび上がる姿も影絵のようだが、圧巻は、台風の前日に血の如く空一面が真っ赤だった中に、黒く浮かび上がった姿であった。

朝起きて富士の姿を眺められると、その日一日良い日が過ごせそうに思えるのは、私一人だけではあるまい。
人生で初めて自分で住む土地を選んだ逗子で、残りの年月を大切に暮らしていきたい。富士に見守られながら。

文 小山 涼子



「天照大神社の初詣」

絵 日高 夕月 (小学5年生)

みんなで景観を考えよう!

～ 愛される逗子の商店街の景色 ～

2013年度から始まった「逗子市市民参加型シティプロモーション事業」の中で、商店街を切り口とした逗子のまちの魅力について、文化の会会員で「瓦版」立ち上げの一人である及川洋一さんに、インタビューをしました。その一部をご紹介します。景観を考えるきっかけの一つになるのではないのでしょうか。

◆ 逗子の商店街の今昔

- ・平屋の商店が協力して、ひとつのデパートのようになるといい。昔からある個店には“香り”がある。例えば、銀座通りの下駄屋（立花屋履物店）は、かつては隣にオオミヤという呉服屋があり、その店とセットになっていた。
- ・アライ洋装店は反物屋、布屋で、セレブのためのお店だった。ほか、商店街を支えてきた古くからの店と言えば、齋藤時計店、三河屋、仙満亭、はら田、珠屋、カドヤ食料品店、カメラの亀甲館、もりおか、やよい化粧品。
- ・かつては銀座通りを“本通り”と呼び、池田通りとなぎさ通りの3つの通りが、海のおかげで自然に育ってきた。菊池タクシーも馬車屋として発展した。逗子海岸入口交差点のところの中萬学院はかつてはスズキヤだった。あの四つ角とそのあたりの商店街は、いわゆる“逗子らしい場所”だった。

◆ 現在から未来へ向けて

- ・デイリーな買い物はスーパーに任せる。個性的、味のある店が増えたらいい。
- ・逗子らしいみやげ品があるといい。逗子の家の庭先にあちこちでぶらさがっている夏みかんを料理してできるようなものなどどうか。
- ・“自然を大事にする逗子らしさ”をもとにした商品などがあってもよい。
- ・逗子のまちは、観光客からお金を取らないと儲からないと思う。いいバランスを保ちながらできるといい。市外から来ている人は、するどい目で店を見ているから、きちんとやっている、印象も良く、認められる。
- ・住んでいる市民のためには、便利なものがあるといい。観光客のためには、夏用品など“逗子は、小洒落たものがある”という印象になるといい。
- ・逗子のお店が好きで住む人が増えるといいのではないか。「こじんまりとした、いい商店街があるから、いい」と思って来る人もいるだろうし、そう思われることを目的にするのもいい。



田越川清掃時のスナップ写真より
左が及川氏

及川さんは、移り変わる時代や人のニーズを常に的確にとらえる一方で、必ず逗子の昔ながらの風景や文化を説き伝え、あるべき逗子の姿を私たちに描いてくれました。たくさんの人たちに惜しまれながら、昨年11月に天国へと旅立たれてしまいましたが、この「瓦版」をはじめ、及川さんの記憶、語り、思いは、私たちの中でこれからもずっと生き続けていくのだと実感しています。カッコよい言葉だけでは「風呂のフタがないってやつだ、“湯～だけ（言うだけ）”ってんだ!」と言われてしまうかもしれません。思いを活動にし続けること、それこそが、天国で逗子を見ている及川さんを笑顔にできるのだらうと思っています。

記 逗子文化の会会員・地域魅力会員 田中 美乃里

瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課♪

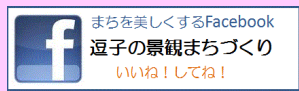
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：machi@city.zushi.kanagawa.jp

逗子の景観まちづくり

検索

クリック!



瓦版に掲載する
逗子の景観コラム、
イラスト募集中!!



☆瓦版のバックナンバーは逗子市ホームページまたはフェイスブックからも閲覧できます。また、逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。他のナンバーも是非ご覧ください。